

SJ

The Safety Japan
since 1971

Close Up

クローズアップ 教育プログラム

自転車を利用するための気づきを促す
新教材「自転車の安全な道路の走り方」

交通事故件数は減少傾向にあるものの自転車に関係する事故（自転車関連事故）が占める割合は増加傾向にある。Honda は交通事故死者ゼロをめざし、すべての人を対象とした交通安全教育に取り組んでいる。その一環として自転車関連事故の低減に寄与するための新たな教育教材「自転車の安全な道路の走り方」を開発。今年2月から地域の交通安全指導者への提供を開始している。今回は栃木県と静岡県のごども園での活用事例を紹介する。

自転車の安全な走り方を
受講者自身に考えてもらう

自転車は便利な乗り物だが、正しい使い方をしないと事故につながる恐れがある。Hondaが開発した教育教材「自転車の安全な道路の走り方」（以下、自転車教材）は、こどもが同乗する際の安全な乗降車や取り回しの方法、また、ヘルメットの有効性や走行中の危険（電動アシスト自転車を含む）などをわかりやすく紹介している。信号機のない交差点を通行する自転車の様子を観察した映像から、日頃の運転行動を振り返るとともに、安全な走り方について考えてもらえるような内容となっている。映像内には問いかけを促す部分もあり、これを活用することで受講者と対話形式で進めることができる。

本編（約24分）は「はじめに」「基礎知識～こどもの乗降車～」「ヘルメットの有効性」「走行中の危険」「観察映像」の5つのパートで構成され、各パートを単独で選択できるため、指導者が実施時間に応じて組み合わせをアレンジできるようになっている（詳細はP3参照）。

事例①間々田こども園（栃木県小山市）

保護者の自転車用ヘルメット着用への意識を高める

間々田こども園では、昨年より園児と保護者を対象にした交通安全教室を2月に実施している。指導を担当する小山市役所市民生活部市民生活安心課 交通教育指導員 菊池久美子さんは「こどもは親の姿を見て育っていきますから、保護者の皆さんが交通安全に興味を持ち、『こどもたちの命を守ってほしい』という気持ちになっていただきたいと思います」と、この交通安全教室の意義を話す。

2月15日に行われた交通安全教室は、年長クラスの園児40名とその保護者40名が受講。まず、菊池さんはHondaの交通安全教育プログラム「あやとりいひよこ※1」と「できるニャンと交通安全を学ぶ※2 幼児編」を使って、園児と保護者に道路の安全な歩き方や横断する際の安全確認などを解説した。その後、園児は園庭に出て道路の渡り方の練習へ。保護者は教室に残り、引き続き講話を聞く。

菊池さんはHondaのホームページにある「お子さまを身近な交通事故から守るために伝えたい3つのやくそく※3」を紹介。次に、自転車教材の「ヘルメットの有効性」と「観察映像」を活用し、問いかけを交えながら教室が進められた。「昨年、自転車用ヘルメットの着用が努力義務となり、小山市ではヘルメット購入の助成金が今年1月から開始になりました。市民の方の自転車用ヘルメットへの関心の高まりは実感していたため、この教材はとてもタイムリーでした。特に、幼児の保護者に見ていただくのにちょうどいい内容です」と菊池さんは語る。

「ヘルメットの有効性」には自転車同士の出会い頭での衝突について検証した資料映像（JAFユーザーテスト）が盛り込まれている。この映像では、大人1人と幼児2人が乗る自転車（幼児2人同乗基準適合車）と大人1人が乗る自転車を出会い頭に衝突さ

栃木県小山市は間々田こども園の交通安全教室でHondaの教材「自転車の安全な道路の走り方」を活用



Contents

- P1 Close Up クローズアップ 教育プログラム
- P4 Close Up クローズアップ 教育機器
Close Up クローズアップ 四輪販売会社
- P5 Close Up クローズアップ 交通安全センター
Safety Info. インフォメーション
- P6 SJ Interview 宇都宮大学 教授 大森宣暁さん
- P7 TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察する
- P8 危険予測トレーニング (KYT)
SJ クイズ



Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは

編集部：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL：03(5412)1736
https://global.honda.jp/safetyinfo/
編集人：横山謙一

※ご不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。
(株)アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

せ、頭部損傷基準値（HIC）をヘルメットの有無で比較している。「自転車に乗る時に、こどもも大人もヘルメットを着用していないと、万が一事故に遭ったらどうなるのか、転倒時どのような影響があるのか、ということも多くの方はわかっていません。そのため、数字を用いた具体的な説明や衝撃的な映像は大人にとっては印象に残り、効果的です。この教材には、そういった実験映像があるので良いと思います」と菊池さんは評価する。自転車教材を視聴した保護者は「実際に自転車同士が衝突する映像を見て、自転車に乗る際はヘルメットを着用しないといけないと実感しました。購入補助があることを知ったので、早速ヘルメットを買おうと思います」と感想を語った。また、ある保護者は「自転車の観察映像を見て、間違った認識をしていたことに気づきました。『止まれ』の標識や道路表示があった時、クルマなら一時停止するのですが、自転車の時はしていませんでした。自分が実践することはもちろん、こどもにも『止まれ』の標識や道路表示があるところ、見通しの悪いところでは一時停止して左右の安全を確認することを教えていきたいと思います」と、受講後に交通安全に対する意識が高まっているようだった。

間々田こども園で年長クラスを担当する保育教諭の笹崎美希さんは「小学校への進学に向けて、親子で交通ルールへの意識を高めてもらうため、昨年から2月に実施することにしました。昨年は年少と年中も参加していたので、今の年長クラスは2回目です。そのため、園庭での横断体験では、こども、保護者ともに『止まる、みる』をスムーズに行っていました。一方で送迎の際、こどもを園の前にある駐車場で遊ばせてしまう方もいるので、駐車場は危険な場所だと認識してもらうための啓発も必要だと思っています」と話す。指導を担当した菊池さんも保護者の交通安全に対する熱心さを感じている。「私の話を聞いている保護者の皆さんがうなずいている様子から、昨年の内容を再確認しているようでした。1年経つと学んだことを忘れてしまう場合があるため、同じ内容でも繰り返し伝えることが大切です」。



「あやとりいひよこ」のワークシートで、園児と保護者に道路を横断する際の安全確認を解説



自転車教材の「観察映像」では保護者への問いかけを行う



最後に親子が一緒になり、園庭に設けられた模擬の横断歩道を渡る



小山市役所 交通安全指導員 菊池久美子さん

間々田こども園 保育教諭 笹崎美希さん

事例②興津北こども園（静岡県静岡市清水区）

ドライバーに信号機のない交差点での自転車への注意を促す

興津北こども園では静岡県交通安全協会清水地区支部の交通安全指導員5名による交通安全教室が2月15日に実施され、年長クラスの園児18名とその保護者15名が参加した。最初に園児と保護者が別々の部屋に分かれ、それぞれ交通安全指導員の講話を聞く。

保護者向けの講話を担当する塚本菜美さんは「幼児の交通事故防止には日常生活において保護者がこどもの交通安全の先生となり、繰り返し教育していくことが大切です。そこで、こどもと手をつなぐ、こどもから目を離さないといった基本的なことや保護者自身が正しい交通ルールを再認識して、交通安全に対する意識が高められるよう独自で作成したチラシや映像などで視覚に訴える交通講話をするよう意識しています」という。こどもとの手をつなぎ方や、道路の歩き方・渡り方を保護者に確認してもらった後、自転車教材を使って自転車の交通ルールを解説していく。今回、活用したのは「ヘルメットの有効性」「観察映像」の2つ。

「観察映像は、定点カメラで信号機のない交差点を通る自転車の様子が撮影されているため、交通行動の実態が把握できる点が良いと感じています。このような映像を私たちが制作することは、なかなかできることではありません。実際の映像で見ると一時停止を無視する自転車の様子を第三者の視点で見ることができ、一時不停止の危険性や恐ろしさがよくわかります。また、ドライバー目線でみても止まらずに通過する自転車があるため、『信号機のない交差点では注意が必要』という意識を持ってもらうことができると思いました」と、自転車教材を取り入れたねらいを塚本さんは説明する。自転車に乗る機会があるという保護者は「クルマを運転している時と違い、自転車では交通ルールをあまり意識していませんでした。観察映像のような信号機のない交差点では『止まれ』があっても歩行者の気分になってしまい、一時停止せずに進入していました。また、こどもが自転車に乗る時は必ずヘルメットをかぶるように伝えていますが、きちんとサイズが合っているか気にしていなかったため、今一度確認してみようと思いま



静岡県交通安全協会清水地区支部による興津北こども園での交通安全教室



自転車同士が出会い頭に衝突する映像を見る保護者たち



信号機のない交差点を通る自転車を定点カメラで撮影した映像を見せながら、塚本さんが保護者たちに様々な問いかけを行った



家庭でも交通安全教育が継続できるよう、小学校入学までに確認してほしいポイントをまとめた資料を配付



静岡県交通安全協会清水地区支部 交通安全指導員の皆さん (右から2番目が塚本菜美さん)

す」と、自転車教材を視聴した感想を語った。
 毎日、通勤などでクルマを運転しているという保護者は「観察映像では、『止まれ』の標識があるにもかかわらず、自転車が1台も止まりませんでした。普段通り慣れている道ほど、自転車には気をつけなければならないと思いました。ドライバーとしても、一時停止や車間距離、安全確認に注意しようとあらためて感じた交通安全教室でした」と気を引き締めていた。
 この日の交通安全教室は、最後に親子で園の周辺道路を歩きながら交通安全教室で学んだことを再確認し、終了となった。塚本さんは保護者に「小学校や中学校では、交通安全教室は年1回しか行われたいと思います。年1回では子どもにすべてを理解してもらうことはできません。ぜひ家庭で交通安全教育を継続してください」と呼びかけた。

保護者向けの講話に同席した興津北こども園 保育教諭の杉田ちぐささんと石川真美さんは、交通安全教室について次のような感想を語った。

「自転車教材の映像を見て、子どもたちにヘルメットをかぶることの大切さを説明できるようにしたいと思いました。私自身もクルマを運転していて、自転車の飛び出しに出会うことがあるので、子どもたちに飛び出しの危険性についても伝えていこうと思います」(杉田さん)。

「保護者の皆さんが、こどもの交通安全に触れる機会はなかなかありません。こどもが道路を歩く様子を見て、不安なところはないか確認していただく良い機会になったと思います」(石川さん)。
 指導を終えた塚本さんは「視覚に訴える教材というのは、交通安全教育をしていく上での重要な要素です。印象に残るため、安全行動の実践につながりやすいと思います。(自転車教材の中で) 今日使用しなかった『走行中の危険』は、歩道上を走行する際の注意点などがわかりやすい角度で撮影・編集されています」と、幼児の保護者だけでなく、中学生・高校生向けの交通安全教室でも自転車教材を活用しようと考えている。

- ※1 幼児(4~5歳)を対象としたプログラムで、歩くことに焦点を当て「どこを歩くのか」「どのように歩くのか」を考えてもらいながら交通安全の基本を学ぶことができる。
- ※2 Hondaの交通安全啓発キャラクター「できるニャン」が登場するアニメーションを活用した対話型のプログラム。幼児編と小学校低学年歩行編の2種類ある。
- ※3 ①「歩いていて、急に道路のまんなかへ飛び出さない。建物や公園から外に出るときはいったん止まろう。」②「近くに横断歩道がある場合は必ず横断歩道を渡ろう。」③「左右がよく見えない交差点では止まって、よく見てクルマやバイクが来ていなかったら渡ろう。」の3つ。詳しくは以下のホームページ参照。
<https://global.honda.jp/safetyinfo/promises/>



交通安全教室では傘の適切な持ち方も指導



園の周辺道路で一人歩きの練習(保護者は後ろから見守る)

自転車の安全な道路の走り方 概要

導入

【できるニャンからのメッセージ】

映像に登場する「できるニャン」が持つ旗の文字を並べ替え、伝えたいメッセージは何かを考える。教室を始める前に集中力を高め、教室が一方向的な映像視聴ではないことを意識させる目的がある



DVD版とWeb版があり、効果的に活用するための「マニュアル」や「電動キックボードの交通ルール」といった資料も用意されている

活用を希望される自治体、警察、団体の方は下記までお問い合わせください。

本田技研工業(株)
 安全運転普及本部
 TEL 03 (5412) 1150

【はじめに】



近年の交通事故件数と自転車関連事故が占める割合の推移を紹介

【走行中の危険】

不安全な状態で走行することの危険に気づいてもらい、自身の安全な運転と他者への配慮を促す



車道と歩道の間にある段差を通過する際の注意点と安全な段差の乗り越え方を紹介

【基礎知識~こどもとの乗降車~】



「消費者庁 消費者安全調査委員会の調査報告書」による幼児を乗せた自転車の転倒事故の映像を見せながら、子どもを乗せる際の安全な乗降車と取り回しの方法を解説



車体の前後やハンドルの荷物の有無によってパイロンスラロームや急制動をした比較映像。“荷物あり”の自転車は“荷物なし”に比べ、挙動が不安定になったり、制動距離が長くなることを示す



本編

【ヘルメットの有効性】



道路交通法ですべての自転車利用者にヘルメット着用が努力義務となったことを伝え、着用の有無で頭部に受ける衝撃の違いを映像で示す



歩道では歩行者に配慮しながら走行することを伝える



電動アシスト自転車の特性なども紹介

【観察映像】



信号機のない交差点を通行する自転車の行動を観察した映像



映像の途中でいくつかの問いかけがあり、受講者に自分の行動を振り返ってもらえるようになっている



交差点から飛び出てくる自転車がドライバーにはどのように見えるか検証



最後に安全な交差点の通過方法を示す